

7. 成果物（ワークシート等）

ワークシート No.1 科目名 認知症の理解

<p>【事例の概要】</p> <p>森田 光弘さん（79歳、男性）、特別養護老人ホームに入所中。          主疾患：脳血管性認知症          症状他：元々は社会的で自治会長をしていたが、最近、BPSD（暴言・暴力）の出現が目立つようになってきた。</p> <p>シーン1          映像の解説          15時、リビングで男性利用者の森田さんが、車いすで右往左往している。そこへ、介護職員が忙しそうに通る。森田さんはその職員に向かい、「邪魔だ！ どけ！」等と怒鳴っている。今日森田さんを担当する介護職員は、そのような森田さんの暴言にうんざりしている様子を描いている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          森田さんが暴言を吐くのは何故なのか？ 介護職員の感情で利用者进行评估（評価的理解）してしまいがちであるが、そこに留まらず、専門職として利用者の言動に対する理由・原因をしっかりと分析し（分析的理解）、また、分析後は利用者の立場に立ち、共感すること（共感的理解）へと、3つのステップで展開させていくことが重要であることを理解する。また、これらのステップで展開させていくことで、介護職員の認識と対応が変化し、それは利用者の言動の変化に繋がっていくことを理解する。</p>	<div data-bbox="1094 389 1356 622" data-label="Image"> </div> <p>映像番号：          暴言・暴力          シーン1 評価的理解</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例①》          BPSDに対する介護職員の感情を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症利用者のBPSDが出現した際、介護職員はどのような感情を抱くのか、まずは正直な自分の感情について考える。</li> <li>・介護職員の感情で目の前の利用者を「好き」「嫌い」「親しみやすい」「かわりにくい」等々評価する（評価的理解）傾向があることを理解する。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示。授業内でも繰り返し視聴しながら、グループワーク等を進める。</li> </ul>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例②》          利用者との関係性や利用者の心身の状態について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員が自らの感情を抱いたまま利用者にかかわり続けている</li> </ul>	

<p>く場合、利用者と介護職員の関係性はどのようになっていくか、利用者の心身の状態はどのようになっていくか、この2つの事柄について想定する。</p>	
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例①》      評価的理解→分析的理解へ      ・森田さんが介護職員に対し暴言を吐く理由や原因には、どのようなことが考えられるか、グループで話し合う。      ・評価的理解を否定するのではなく、介護職員にも感情があることを理解した上で、そこに留まるのではなく、BPSDが出現する理由・原因について、専門職としてしっかり分析することを学ぶ。</p>	<div data-bbox="1082 421 1353 667" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号：          暴言・暴力          シーン2 分析的理解</p>
<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例①》      分析的理解→共感的理解へ      ・森田さんが暴言を吐く理由がわかり、利用者の立場に立ち、利用者の思いに共感することの重要性を理解する。      ・BPSDの理由・原因についてしっかり分析をし、共感をしたことにより、適切な対応方法や介護方針が見つかることを学ぶ。対応方法の検討を先行させるのではなく、適切な分析が重要であることを理解する。</p>	<div data-bbox="1082 855 1353 1102" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号：          暴言・暴力          シーン3 共感的理解</p>
<p>《シーン4を用いた授業の具体的な展開例①》      利用者のBPSD軽減と心身の状態変化を理解する。      ・介護職員のかかわり方が変化したことで、森田さんの暴言がなくなり、笑顔が見られるようになった映像を通し、認知症の中核症状の軽減は難しいが、BPSDは介護職員の適切なかかわり方により軽減することを学ぶ。また、BPSDが軽減することにより、利用者の心身の状態変化に繋がることを理解する。</p>	<div data-bbox="1082 1290 1353 1536" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号：          暴言・暴力          シーン4 ステップ後の変化</p>
<p>■本事例からの学びと展開 本事例は、「ひもときシート」の3ステップ（評価的理解→分析的理解→共感的理解）の理解を深めるものである。BPSD出現時は、対応方法の検討を先行させるのではなく、専門職としてその理由や原因についてしっかり分析する。介護職員の感情を否定するのではなく、評価的理解に留まらず、分析的理解から共感的理解へと3つのステップを経ていくことで利用者への理解を深める。認知症の人の行動から、言葉に出せないメッセージがあることに気づき、介護職員のかかわり方でBPSDが軽減することを理解する。■当該科目での別の使い方 「認知症の人とのかかわり方」として、介護職員としての自己を振り返る。■違う科目での使い方 介護過程、コミュニケーション技術、人間の理解等</p>	

<p>【事例の概要】 特別養護老人ホームに入居している佐藤さん（90 歳、男性）。朝食の時間であり、リビングの自席にいる。</p> <p><u>シーン1</u> 映像の解説 朝食前、さまざまな音がする環境の中で、声をかけられている。</p> <p><u>シーン2</u> 映像の解説 朝食前、静かな環境の中で、声をかけられている。</p> <p>映像作成時のコンセプト 佐藤さんを取り巻く環境への配慮に注意をして視聴をし、気づきを促す動画。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">配膳場面シーン 1</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">配膳場面シーン 2</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン 1 での佐藤さんの身体的状況を考える。また、「なんだよ」と言った理由を考える。</li> <li>・シーン 2 での佐藤さんの身体的状況を考える。</li> <li>・シーン 1 と 2 の違いは何かを考える。</li> </ul> <p>加齢による身体的変化を踏まえ、その影響として考えられることは何かグループワークを行う。環境の違いが、利用者にとどのような影響を与えるかを考える。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン 1 での佐藤さんの世界を知る。</li> <li>・佐藤さんの行動について考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>シーン 1、シーン 2 を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤さんについての支援方法を考える。</li> <li>・違う科目での用い方 「認知症の理解」「発達と老化の理解」等</li> </ul>	

<p>【事例の概要】 実習生と担当利用者との会話風景。テーブルには担当利用者ともう1人利用者がいる。</p> <p><u>シーン1</u> 映像の解説 学生自身の情報収集を主とした会話風景。</p> <p><u>シーン2</u> 映像の解説 全体との会話を楽しもうとする学生の会話風景。 映像作成時のコンセプト 利用者との相互作用が生じるコミュニケーションの取り方や、コミュニケーションの基本的姿勢について学ぶ。</p>	 <p>学生コミュニケーション①</p>  <p>学生コミュニケーション②</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <p><u>シーン1</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 学生の行動、目線、応答・対応の仕方について話し合う。</li><li>• 利用者は何故そう思ったのかを考える。</li></ul> <p><u>シーン2</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 学生の行動、目線、応答・対応の仕方について話し合う。</li><li>• コミュニケーション技術の振り返りを行う。</li></ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>シーン1、シーン2を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 違う科目での用い方 「コミュニケーション技術」でのコミュニケーション技法について、利用者の感情についてなど。</li></ul>	

<p>【事例の概要】                  新井茂さん（74歳、男性）。右片麻痺がある。                  デイサービスに通っており、帰りの送迎バスに乗るために立ち上がりから歩行の介助を行う。</p> <p>シーン1（悪い例）  <u>映像の解説</u>                  介護職員のペースで介助を行う。</p> <p>シーン2（良い例）  <u>映像の解説</u>                  介護職員は新井さんに介助の確認をしながら行う。  <u>映像作成時のコンセプト</u>                  過介護にならないよう、本人の能力を理解し、本人が動き出しやすいような声掛けについて考えられるようになる。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>待つ介護                  （悪い例）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>待つ介護                  （良い例）</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン1とシーン2を比べて、新井さんの気持ちの違いについて考える。</li> <li>・自分で考え、行動する意味について考える。</li> <li>・自立支援について振り返る。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>展開例</p>	

<p>【事例の概要】</p> <p>佐野ゆきさん（85歳、女性）特別養護老人ホーム入所中          主疾患：アルツハイマー型認知症          症状 他：下肢筋力低下により立位不安定、記憶障害</p>	
<p>シーン1</p> <p>映像の解説          転倒リスクのある利用者がテーブルに置いてあるボトルを直そうと立ち上がるが、職員にとめられる。</p> <p>映像作成時のコンセプト          言葉でも利用者の行動を制限する、尊厳を傷つけることにつながる。</p>	<p>映像番号 S①          スピーチロック          （悪いかかわり）</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の不適切なかかわりをあげる。</li> <li>・佐野さんが立ち上がろうとした行動の意図を考える。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説          シーン1での良いかかわりの例。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン1での適切なかかわりを示す。</p>	 <p>映像番号 S②          スピーチロック          （良いかかわり）</p>
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン1での適切なかかわりの解説に用いる。</li> <li>・転倒リスクのある利用者の対応について考える。</li> <li>・介護者の決めつけは、利用者の尊厳を傷つけることにつながる危険があることに気づかせる。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>映像番号S①、映像番号S②を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方              シーン1とシーン2を逆に見せ、何が良かったのかを検討する。</li> <li>・違う科目での使い方              「介護過程」の中での、利用者の思いと具体的な介護方法との結びつき等。</li> </ul>	